

■発行元 神戸学院大学  
地域研究センター明石ハウス  
■住所 〒673-0871  
明石市大蔵八幡町5-23  
■電話 078-995-5414  
078-974-4232(事務局)  
■mail akashi-h@human.  
kobegakuin.ac.jp

# 神戸学院大学地域研究センター 明石ハウス通信

大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ 2022

## シンポジウム 海のまほろば 明石で始める 風土と暮らしの人文学

2022.8.7 sun  
開催しました!

2020年春、「大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ」は、コロナによりやむなく休止に…。今回、その再開第一弾として、シンポジウムを行いました。当日の様子をご紹介します。



基調講演を行う用田教授

用田政晴教授(考古学・博物館学)は、旧明石郡内の白水瓢塚古墳(神戸市西区)、五色塚古墳(神戸市垂水区)、吉田王塚古墳(神戸市西区)が、それぞれ異なった特色を持つことを詳しく紹介しました。3基の特色ある前方後円墳が地域に集中することは、畿内政権にとって旧明石郡が東アジア世界に対する「関門」と位置づけられていた可能性を示唆することです。

今回は明石ハウスではなく、JR明石駅前のウィズ明石に場を移し、感染対策を講じた上で開催しました。

基調講演では、最初に中村健史准教授(国文学)が、古代の明石地域で「海人(あま)」と呼ばれる漁民が活躍していたことや、『万葉集』に見られるスズキやマグロを釣る記述を紹介しました。また、海人をめぐる空想に基づく藤原定家「来ぬ人を松帆の浦の夕風に焼くや藻塩の身もこがれつつ」は、現在の明石市西部の海岸付近かと推測される名寸隅(なきすみ)から来る男を待つ歌だという解釈も披露しました。



シンポジウムの様子

以上の基調講演を受け、三田牧准教授(文化人類学)の司会によってシンポジウムが行われました。講演を聴かれた地域の皆さんからの質問に講演者が回答したほか、矢嶋巖教授(人文地理学)もパネリストとして加わり、古代や現代の社会における海と人との関わり、漁民の暮らし、明石における海の位置づけや淡路島との関係などが活発に議論されました。シンポジウムの中で地域の埋もれた記憶を掘り起こすような指摘や意見もあり、活発で有意義な議論を深めることができました。



中村准教授と矢嶋教授

\*予定していた鈴木遥講師の基調講演「移住と家族からみる地域 —インドネシア沿岸の事例より—」は、都合により中止しました。  
\*このシンポジウムは神戸学院大学人文学部研究推進費、JSPS科研費19K12491による研究成果を含みます。

# 創作演劇プロジェクト

# アタシノアカシ

2022.7.21 fri 開催しました！

「アタシノアカシ」は、中国の女性演劇を研究する人文学部の中山文教授が例年取り組んでいる、学生の創作演劇のプロジェクトです。2019年度まで明石ハウスで開催していた「大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ」でも、地域の方々をお招きしたリーディング公演を行っていました。

明石についての題材を探し、戯曲を書き、プロの劇作家にコメントをいただき、修正校を提出。投票で上演作品3本を選び、読み合わせ、キャスト決定、班別稽古という過程を経て、学習成果の発表としての上演に至ります。学生たちにとっては、コミュニケーション力を高め、発想力や表現力を披露し、達成感を得る機会でもあります。

今回は、2回生向けの授業「実践演習Ⅰ」クラス、3・4回生向けの授業「作品創作」クラスの前期の成果発表として、2クラス合同発表会の形でリーディング公演に挑戦しました。

「実践演習Ⅰ」クラスからは『魚の棚のポンコツ弁天様』（作・演出 河村真子）、『ひまわりが見つめる先は』（同 南谷京）、『赤石物語～その後～』（同 久保空輝）が、「作品創作」クラスからは『めぐり逢ひ』（作・演出 長瀬蓮花）、『転換記』（てんかんき）（同 柿田夏希）、『海で洗う』（同 山岡未侑）が上演されました。魚の棚、明石海峡ウォーク、地名の由来、『源氏物語』、市のパートナーシップ・ファミリーシップ制度導入、神姫バス・山陽電車内での1コマと、多様な明石の魅力が描かれました。



『赤石物語～その後～』より



『魚の棚のポンコツ弁天様』より

一昨年度・昨年度はコロナ禍のため、無観客での開催を余儀なくされました。今回は感染対策を行った上で、ご父兄などの外部参加者を含めて20数名の観客においていただきました。

会場のオーバルホールは収容数50席余りの小さな場所ですが、コロナ禍でなかなか大学生活になじめなかった学生たちにとって、このイベントは大いに励みになったことと思います。

# 教員紹介

# 矢嶋 巖 教授(地理学)

## Q：研究について教えてください

地理学は、日本や世界の地域が、どのように似ていてどのように違うのかを考える学問です。地理は学校の社会科教育にも含まれる、世の中のために必要な考え方です。中学校では、あらゆる場所について網羅的に教え、高校では、地域同士を系統立てて比較し、特殊性を把握します。このような形で地理を「学ぶ」のに対し、大学の地理学では、自分で「研究」をしなければなりません。ある場所のあるテーマについて、過去と現在と未来を考えるのです。

地理学が扱う領域は幅広く、環境・産業・文化・歴史などを把握しなければ、その場所の特性はわかりません。これを「地理の総合性」と言います。



ため池のかいぼりで学生を撮影

## Q：明石との関係について教えてください

2008年に神戸学院大学に着任した当初は、酒米山田錦の生産地で研究をしていました。2011年に稲爪神社の秋例大祭に参加して以降は、地域の方々とゼミ生が協働する活動を、現在に至るまで続けています。

大蔵地域で得たつながりは、様々な活動につながっています。神戸学院大学と大蔵地域は、ともに朝霧川の流域です。農村地帯から現代の住宅地への変遷を朝霧川の歴史とともに通観し、地域像として理解するために、コミュニティとも連携した取り組みを行っています。他にも、買い物環境の聞き取りを通じて、宿場町から住宅地への変遷を考えたりもしています。



大蔵会館についてゼミ生に説明中

Youtube  
連動企画

# くずし字 解読講座

第3回

### ▼省略の過程

字母(漢字)をどのくらい崩して「仮名」に使うのかということに、決まりはありません。そのため、比較的行書寄りの字形が「仮名」として使われることもあります。

現在のひらがなの「つ」は、「川」が字母です。江戸時代のものを見ると、「川」と「つ」の中間に位置するような字形も、仮名の「つ」として使われています。



し(志)つ(川)ま(まで)天

逆に、現在のひらがなを更に省略した形も使われていました。例えば「も」は、現在は横画を二本書きますが、それを一本にまとめたような字形がよく見られます。上下との連綿に適した形は、特に使いやすいかたようです。



ものわ(王)びし

### ▼濁点と句読点

現在は当たり前に使われている濁点と句読点は、日本語の表記に最初から備わっていた訳ではありません。鎌倉時代に作られた『土佐日記』などの写本には、濁点も句読点も使われていません。日本語の長い歴史の中で、読みやすくするための工夫が少しずつ重ねられてきた結果が、現在の表記法です。

江戸時代の版本を見ると、一般向けの本であれば、濁点はおおむね付けられています。点が一つしか打たれていない例もよく見られます。



な(奈)が(可)し

句読点はと言うと、全く付けない本、最低限必要な部分のみに付けている本、丁寧に付けている本など様々です。記号の形や種類も決まっています。更には、文を区切る句点と、意味の切れ目を示す読点との区別もありませんでした。



なりぬ。

など、

これは、現在の感覚からすると、不親切なように思えます。しかし、表記の工夫が整備されていく過渡期の様子だと考えることもできます。

# 明石ハウス NEWS

神戸学院大学 明石ハウス

検索

## 古い写真を探しています

もし大蔵谷の古い写真をお持ちでしたら、拝見させていただきませんか。差し支えなければ、そのコピーを取らせていただき、神戸学院大にデータをコレクションさせてください。その写真についての思い出や、ご存じのことをお話いただければ、なおさらありがたく存じます。

(とりわけ、大蔵界隈の海岸風景の写真を探しています。)

## 明石ハウス写真展「稲爪神社 秋の大祭の物語」開催中



終戦から間もない昭和20年代前半と推定される、稲爪神社・秋の大祭の様子を撮影した写真を、明石ハウスにて展示しております。主に稲爪神社ご所蔵のもので、神社や関係者各位のご厚意をいただき、写真展の形で公開しております。

これらの写真は、祭礼はもちろんのこと、当時の町並みや人々、生活などの様子を知る上でも、大変貴重な資料です。しかし、写真だけでは、そこに写るものの事情や意味、背景まではわかりません。

明石ハウスでは、展示中の写真にうつる風景や人物、祭礼の様子などにまつわる情報を求めています。写真が呼び起こす思い出など、お話をお聞かせいただければ幸いです。

場所 明石市大蔵八幡町5-23 明石ハウス(大塩邸) 右下の地図をご参照ください

日時 毎週火曜日・金曜日(祝日を除く) 9:00-16:00

お問い合わせ ☎078-995-5414 (明石ハウス・上記開館時のみ通じます)

☎078-974-4232 (地域研究センター事務局・火水金10:00-17:00)

✉akashi-h@human.kobegakuin.ac.jp

## Youtube「オンライン くずし字講座」配信中



Youtube  
明石ハウスチャンネル



地域研究センター  
Webサイト

コロナ禍で中断となりました「くずし字解読講座」を引き継ぐ企画として、「オンラインくずし字講座」をYoutube「明石ハウスチャンネル」にて公開しています。江戸時代出版された『源氏物語』の注釈書『湖月抄(こげつしょう)』の「明石」の巻を使ってくずし字を学ぶという企画です。4月にリニューアルしました地域研究センターのWebサイトでも、関連記事の掲載を行っています。

明石ハウスは、神戸学院大学が大蔵八幡町にお借りしている研究活動拠点です。建物(大塩邸、明治30年代後半築)は、明石市の都市景観形成重要建築物に指定されています。

山陽電鉄 大蔵谷駅 徒歩5分

